



ふれあい

二〇一九年 八月号

ふれあい探訪

北の大地に
生きる

清流の里

“秦野”へGO!

ふるさと食紀行

じゅんさい鍋

ご当地美味だより

至福のひととき

ひんやりアイス

本会が主催する「第1回農検栽培コンテスト」でグランプリを受賞した東京都世田谷区立砧中学校の農業部。屋上で野菜や果物を育てているという、都会ならではの活動ぶりを見せてもらいました。

周囲を閑静な住宅街に囲まれた東京世田谷区の一画にある区立砧中学校。今年度で開校72周年を迎える歴史ある学校で、全校生徒は約600名と都内でも有数の規模を誇ります。

その校舎の屋上で活動しているのが、農業部の生徒たちです。この日も放課後になると15名ほどが集まり、さっそく畑仕事を開始しました。

屋上という限られたスペースながら、栽培している農作物は驚くほど多彩。取材時だけでもミニトマトやナス、トウモロコシ、シシトウ、バジルやメロンなど10品目以上が作付けされ、年間では30品目近くを栽培しています。

農業指導に当たっているのは、農業アドバイザーで砧中学校のOBでもある外部指導員の由井和也さん。作業中の生徒たちの間を回りながら、「じゃあ、メロンに網をかけてみようか」「そのシシトウはもう収穫できるよ」などと声をかけ、必要に応じてお手本を見せます。

生徒たちはそれをまねつつ、「えー、

これ結構むずかしいよ」「先生、シシトウってどれくらい辛い？」などと活発な会話が飛び交い、部活動はワイワイとにぎやかに進みます。収穫したばかりのミニトマトをパクリと口に入れ、「うまい！」と感激する男子生徒も。和気あいあいとした雰囲気なのが、生徒たちが農作業を心から楽しんでいる様子が伝わってきました。

今でこそ立派な屋上農園ですが、つい3年前まで、この場所は芝生が伸び放題の荒地だったそうです。それを見た前校長が「ここに畑を作り、部活動の場にできないか」と考え、由井さんに協力を依頼。母校のために力になりたいと考えた由井さんも快諾し、2017年に「栽培部」が設立されました。

最初は芝生の撤去と土入れから始め、部員たちの努力で現在の畑が完成。今年5月には、より本格的な農業への取り組みをめざして「農業部」に名称を変更し、部員たちはよりいっそうの熱意で部活動に取り組んでいます。

わたしたちの未来



農業って、おもしろい!



「大変そう」が「楽しい」に 農業のイメージが変わった

「私としては、教育のためというより、生徒たちが外で遊ぶのと同じ感覚で楽しんでくれるのが一番だと考えています。今の子どもたちは、学校が終わるとすぐに塾や習い事があつたりして、なかなか自然や土に触れる機会がありませんから、学校の中にこうした場があるのは大きな価値があると感じています」
こう話してくれた由井さん。とくに東京のような都会で暮らす子どもたちにとって、農作物を自分の手で育てるといふ体験はとても貴重です。
「この部活を始めるまで、農業は遠い存在だったし、『土で手が汚れて大変そう』というイメージがあつたんです。でも、自分で畑に畝を作ったり、苗を植えたりするうちに、農業ってこんなにおもしろいんだと思うようになりました」と話すのは、3年生の大森遥月さん。「今は畑に来るたび、野菜が成長している姿を見るのが楽しみ」と笑顔を見せます。

同じく3年生で部長を務める兼子寿々さんは、「この場所が芝生だった頃を知っているの、畑を整備して初めて野菜を収穫したときは達成感がありました。収穫した野菜は部員たちで山分けして持ち帰るのですが、自分たちが育て

たという愛着もあつて、いっそうおいしく感じます」と話してくれました。収穫したニンニクが給食のガーリックトーストに使われるなど、自分たちが育てた野菜を全校生徒に食べてもらう機会もあり、部員たちの励みになっています。

**自分の手で育てるから
生産者への感謝も生まれる**

自分で食べるものを、自分で育てる。この体験が生徒たちにもたらすものは想像以上に大きいようです。農業を発信する立場である由井さんは、こう話します。
「スーパーで気軽に買える野菜は、実は生産者がこれだけの手間ひまをかけて作っている。それを知るだけでも感じるものがきつとあるはずですし、これから子どもたちが生きていく上で大きな経験になると思っています」
机の上の勉強だけでは学べないことを日々吸収する生徒たち。今後の成長がますます期待されます。

今年もやります！ 農検栽培コンテスト

作物を栽培して記録し、農業のこれからを考える「農検栽培コンテスト」。中学生・高校生・特別支援学校生徒が対象です。ぜひ応募してください。

屋上の農園から広がる

育てたニンニクを
みんなに食べてもらいました

—ニニクの栽培履歴—
今年がニニクトーストは農業部のニンニクを使用しています

1. 準備
肥料・水をまいてはきをします。
2. マルチ
うねを2cm幅に作り、マルチをまきます。
3. 植えまき
ニンニクは、たわでほろろのり粉をまきまします。
4. 追肥
少し時間かたつたら再び肥料をまきます。
5. 完成!!
収穫時期は、収穫機で収穫します。

届き次第に約8ヶ月かかります！
農業部の思い
手間をかけて育てたニンニクが、みなさんに食べてもらえることばとてもうれしいです！
ぜひ農業部に感想をまかせて下さい！

